社会的責任目標が学業達成に及ぼす影響
── その動機づけプロセスの検討 ──

中　谷　素　之

問　題

教室場面における児童の学習活動は，教師やクラスの友人との様々な社会的相互作用を通じて行なわれている。そこでは，児童がどのような社会的な要因をもち，行動しているか，ということが，児童の対人関係や学習活動に深く関係している可能性がある。

しかし，従来の児童の学習への動機づけに関する研究では，児童のもつ学業関連の要因のみが注目され，それ以外の要因に関しては検討されてこなかった。児童の学習活動や学業達成は，単に内発的動機づけや原因帰属様式だけによるものではなく，様々な社会的要因によっても多分に影響されることは，教育現場からもしばしば指摘されるところである。

本研究では，最近の動機づけ研究で取り上げられている個人的目標（Ford & Nichols, 1991 ; Wentzel, 1991）の観点から児童の社会的要因に注目し，学業達成との関連を検討する。児童の社会的目標のうち，特に社会的責任目標（Social responsibility goal）は，教室の社会的文脈における学業達成に重要な意義をもつと考えられる。「社会的なルールや役割への期待を守ること（Wentzel, 1991）」として定義される社会的責任目標は，教室における対人的な相互作用を左右し，結果的に児童の学業達成にも様々な影響を及ぼしていることが考えられる。このように，社会的責任目標が学業達成に影響を及ぼす過程には，以下の２つのプロセスが考えられる。第一に，児童―教師関係では，社会的責任目標をもつ児童は，ルールを守り，協調的な行動をとるため，教師から好まれ，受容されやすい。そして教師との積極的で良好な関係により，授業や個人指導等の学業面での相互作用におけるメリットを多くもつことが考えられる。第二に，友人との関係において，社会的責任目標をもつ児童は，友人との関係を円滑にもち，積極的な関係を結びやすい。そのため，他の児童に比べ，学級への適応や学習活動への従事（例えば小集団学習での相互作用や学習関連情報の交換など）の点でサポートを受けることによって，学習活動に効果的，あるいは意欲的に取り組む機会を多く得るであろう。

本研究では，教室における児童の社会的責任目標が学業達成に及ぼす影響について，特にその動機づけプロセスを明らかにすることを目的とする。１．児童－教師関係，２．友人関係という教室における２つの重要な社会的相互作用を媒介して，児童の社会的責任目標が学業達成に影響を及ぼすプロセスに関する検討を行う。教室という社会的文脈における児童の目標と対人関係との相互作用的な学業達成の過程が明らかにされることが期待される。

研究１

目的：教室における児童の社会的責任目標及び学業的目標の測定尺度を作成し，尺度の信頼性・妥当性に関して検討する。

方法：**①被調査者**　静岡県下・愛知県下の公立小学校３校の４～６年の児童591名（男子306名，女子285名）。**②質問紙**　以下の２種類の質問紙が実施された。回答方法は，各項目について「いつもあてはまる」から「どんなときもあてはまらない」までの５段階評定。１．社会的責任目標尺度　前述の定義に従って，(1)規範遵守目標13項目(2)向社会的目標12項目の２つの下位尺度からなる社会的責任目標尺度を作成した。２．学業的目標尺度　従来の研究知見（例えば Ames & Archer, 1987）に従い，(1)熟達目標11項目(2)評価目標11項目の２つからなる学業的目標尺度を作成した。

結果と考察：社会的責任目標，学業的目標の尺度について項目分析及び因子分析を行い，各尺度項目について検討した。その結果，最終的に社会的責任目標では規範遵守目標が10項目（例：クラスで自分が受け持ったことは，ちゃんとやるようにします），向社会的目標が８項目（例：友達が何かに困っていたら，手助けしようと思います）の計18項目，学業的目標では熟達目標が10項目（例：勉強して新しいことを知ることが好きです），評価目標が７項目（例：勉強するのはよい成績がとりたいからです）の計17項目が選択された。全ての尺度のα係数は .72～.86，約１ヵ月半後の再検査（N＝54）との相関は，.70～.75（全て$p < .001$）であり，各尺度は一定の信頼性をもつものと考えられた。また，社会的責任目標と規範意識尺度及び愛他性尺度との相関も .49，.60（$p < .001$）と十分高く，一定の妥当性が認められたといえる。

研究２

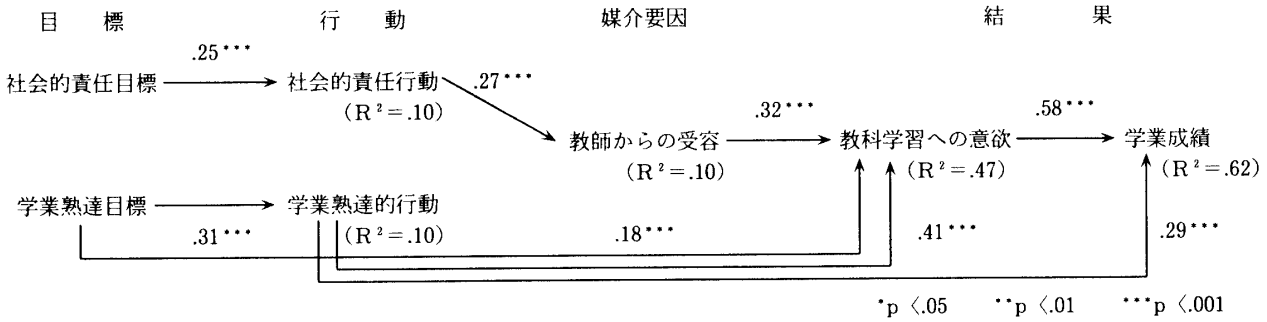

Figure 1　社会的責任目標・学業熟達目標が学業達成に影響を及ぼすプロセス　―教師との相互作用モデル―
(教師評定による教科学習への意欲を用いた場合。重決定係数(R^2)は全てp〈.001。)

目的：社会的責任目標が教師からの受容を媒介して学業達成に影響を及ぼすプロセスについて，学業的目標と比較しながら検討する。

方法：**①被調査者**　愛知県下の公立小学校4～6年の児童238名（男子121名，女子117名）。**②質問紙**　研究1で作成された社会的責任目標尺度，学業的目標尺度が用いられた。また，ゲス・フー・テストによる児童の社会的・学業的行動調査，児童の自己評定による教科学習への意欲調査（10段階評定），教師評定による教師からの受容（3段階評定），児童の教科学習意欲と学業成績（いずれも5段階評定）の各調査が行われた。

結果と考察：予測される目標→行動→媒介要因→結果のモデルに従い，階層的重回帰分析を行った。その結果，社会的責任目標が行動を経て教師からの受容に影響を及ぼすことによって，学業達成を導いているのに対し，学業熟達目標は，教師からの受容を経ることなく，行動が直接的に学業達成に影響を及ぼしていた（Figure 1）。社会的責任目標は，教師との関係を規定する重要な要因であり，結果的に学業達成にも大きな影響を及ぼしていることが示唆された。

研究3

目的：社会的責任目標が友人との関係を媒介して学業達成に影響を及ぼすプロセスについて検討する。

方法：**①被調査者**　愛知県下の公立小学校5，6年の児童115名（男子56名，女子59名）。**②質問紙**　研究1で作成された社会的責任目標尺度，学業的目標尺度が用いられた。また，ゲス・フー・テストによる児童の行動調査と友人からの受容調査，児童の自己評定による教科学習への意欲調査（10段階評定），教師評定による児童の教科学習意欲と学業成績（いずれも5段階評定）の各調査が行われた。

結果と考察：予測される目標→行動→媒介要因→結果のモデルに従い，階層的重回帰分析を行った。その結果，社会的責任目標は行動を規定することによって友人からの受容を導き，結果的に学業達成に影響を及ぼしていることが示された。社会的責任目標は，友人との関係を積極的で良好なものにするよう働いており，結果的に教室における意欲や成績にも重要な影響を及ぼしていることが示された。

全体的考察

本研究では，従来の達成動機研究では注目されなかった，児童の社会的目標と学業達成との関連について検討した。特に，社会的責任目標に焦点を当て，児童の目標と社会的行動，及び児童―教師関係と友人関係という教室における2つの重要な対人関係との関連から，学業達成に影響を及ぼす一連のプロセスについて検討を行った。その結果，社会的責任目標は教師や友人との関係という媒介要因を経て学業達成に影響を及ぼすことが示され，その相互作用的な動機づけプロセスが明らかにされた。一方，学業熟達目標は，社会的な媒介要因を経ることなく，直接的に学業達成に影響していた。

本研究の結果，教室という社会的文脈における学業達成には，児童の社会的責任目標が間接的ではあるが重要な役割を果たしていることが明らかにされた。このことは　①理論的な面から，学業達成について考える際に，従来達成動機研究で扱われてきた児童の学業的要因に加え，社会的な要因（目標）も考慮して，多面的に学業達成を理解する必要があること　②実践的な側面から，児童の学業達成への理解と介入には，教室の社会的文脈における達成という視点から，単に学習行動や指導方法といった要因からだけでなく，児童の社会的目標や対人関係といった社会的変数も理解した上で，これらを含む包括的な見地から考える必要のあること　という2つの意義ある知見を提起するものである。今後，社会的責任目標→達成のプロセスの発達的変化や，社会的コンピテンスやスキルと学業達成との関連，そしてそれを支える学級内の構造や要因に関する検討，などについて研究する必要がある。